

はじめに

WSJT-X/JTDX と連動して動いている JTAlert では、Name と QTH そしてカントリー GL などを ADIF にて保存しているから、このファイルを読みこんでハムログに転送するアプリを自作して 3 年ほど使ってきました。

その後、ファイルを読むのではなくて、JTAlert から発信される UDP 信号を捉えて、その内容をハムログに転送する様に変更しました。 JTAlert が保存しているファイルを常にチェックしなくて良くなったからハードディスク（または SSD）への負荷が軽くなったし、UDP から素早く QSO データーが転送されるので快適になりました。

但し、国内移動運用ではノート PC 1 画面運用なので画面を有効に利用する観点から、JTAlert を使わず、直接 WSJTX/JTDX から QSO データーを受け取り処理できるダイレクトモードを追加しました。

この下の画面では JTAlert Linker モードです。

The screenshot shows the LinkerUDP V1.3.2 application window. The title bar reads "LinkerUDP V1.3.2". The main window has a light gray background with various input fields and checkboxes. At the top right, it says "JTAlert Linkerモード". The fields include: CALL: (text box), DATE: (text box), UTC/JST (dropdown menu), FREQ: (text box), RST_RCVD: (text box), RST_SENT: (text box), MODE: (text box). Below these are sections for "Full Name" (checkbox), "QTH" (checkbox), "COUNTRY:" (text box), "Remarks1" (checkbox), "JCC/G:" (text box), "First Name" (checkbox), "City" (checkbox), "GRID:" (text box), "Remarks2" (checkbox). There are also radio buttons for "CQ", "1", and "2". A "受信" (Receive) button is on the left. A "ポート番号" (Port Number) field is set to "2333". An "Auto" checkbox is checked. A "Data to Hamlog" button is in the center. A "クリアー" (Clear) button is on the right. The "QSL" section has radio buttons for "JARL", "eQSL EE" (selected), "NoQSL", "8N, 8J, 8K= N" (selected), and "hQSL".

WSJT/JTDX ダイレクトモードまたは JTAlert Linker モードと表示されたら、準備が整っています。

なお、モードの切り替えは、JTAlert が先に起動しておれば JTAlert Linker モードになります。 JTAlert が起動していなければダイレクトモードです。

それでは、順を追って、設定を説明します。

受信ポートの設定

1) WSJT/JTDX ダイレクトモード

LinkerUDP が WSJT-X/JTDX から UDP 信号を直接受信できるように設定をします。
私は、JTDX を使っていますから JTDX の設定画面で説明します。

設定画面のレポーティングタブを押せが画面下の方に WSJT-X/JTDX ともサーバーは 127.0.0.1 と PC 内部処理の番号とあらかじめセットされています

UDP 要求を受け入れるなどの 3 カ所にチェックマークを付けてください。また、記録された QSO データと UDP 経由で無確認の…のところにもチェックマークを付けましょう。

次に、同じ画面の上方に注目してください。

記録された QSO ADIF データーを送る項目の下側を、UDP ポートを 2333 で第 2 UDP サーバーへ送信を許可するにチェックを入れます。この 2333 番号は貴男の PC の場合違いかも知れませんので、この番号は控えておいてください。

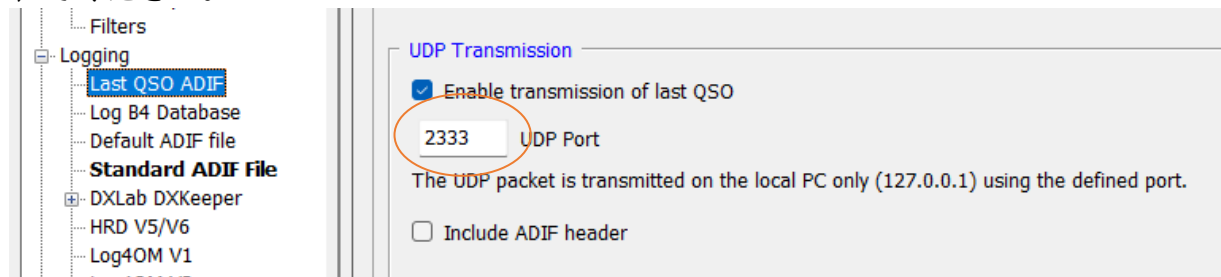
なお、先の UDP サーバーポート番号と、今回の QSOADIF データー転送の UDP ポートは番号が違っていなければなりません。

LinkerUDP はこの番号で送られた UDP 信号を受信します。

2) JTAAlert Linker モード

WSJT-X/JTDX から出てくるシンプルなデーターに JTAAlert が独自に Name QTH などを追加した ADIF データーを UDP で発信してくれるように JTAAlert 側をセットします。JTAAlert のメニューから Steeing をクリックして設定画面を出します。

Logging の Last QSO API から UDP Transmission 枠内の Enable transmission of last QSO にチェックマークを付けます。そして、その下にある UDP Port 枠に 2333 と入れてください。



簡単に言いますと、WSJT-X/JTDX → 2237 → JTAAlert → 2333 → LinkerUDP へと流れます。

上記 1) または 2) でセットが終われば、LinkerUDP を起動させます。LinkerUDP の画面左下の受信枠内のポート番号に 2333 とセットして一旦プログラムを終了して、再起動してください。次回再起動時からは、この番号は同じ数字がセットされます。

なお、他のアプリが既に使っている UDP ポートと重複指定すると「予期せぬエラー」表示が出てプログラムが止まってしまうので、十分気を付けてセットください。2237 と 2333 は大きく違っていています。間違わないでください。Hi

この UDP ポート番号を変更したいときは、JTAAlert または Hamlog がまだ起動していない状態で、LinkerUDP を起動してください。そして変更したい番号を書き込んで一旦再起動させてください。

LinkerUDP アプリ側の設定

画面上の Name と QTH は 2 者択一です。フルネームかファーストネームのどちらかを選択ください。QTH も、フル QTH かシティ名なのかを選択します。

ハムログの QTH 枠はデフォルトでは 28 文字とのことなので、その範囲内で QTH (またはシティ名) + カントリー名の合計で 28 文字以内に収まるようにプログラムしています。QTH に記号・数字が入っていたらすべて取り除いています。また、長い国名も必要に応じて短く編集するときもあります。

まあ、お好みですけど、私は、First Name と QTH 側に常にチェックを付けています。なお、国内局でハムログユーザーの場合、名前と QTH は漢字交じりの日本語でハムログに表示されますから、JTAlert からの英語表記よりも、日本語を優先して保存するようにしています。

また、Remarks は 1 と 2 が有りますが、Remarks1 の方は 1 交信ごとに消えます。Remarks2 の方は勝手には消えないようにしています。 使い分けてください。

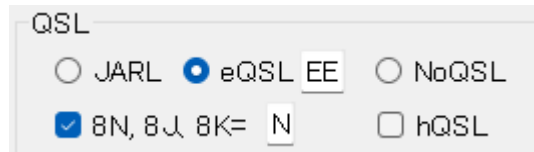
JCC/G 番号を入れる枠は、移動局と交信中のみ JCC/G コードを書き込みます。

A screenshot of a software interface showing a label 'JCC/G:' followed by a text input box. The input box is currently empty.

QSO データーがハムログに転送されるタイミングより先に書き込んでください。

ハムログへの転送はデーターが表示されてから 5 秒後に自動的に行われます。 5 秒以内に Data to Hamlog 押し釦の左側の Auto のチェックマークを外せばハムログに自動転送はしません。内容を正しく修正してから Data to Hamlog ボタンを押してください。似たようなことですが、ごく稀に、WSJT-X/JTDX から RST_RCVD のデーターが送られないことが有ります。 注意喚起のメッセージが出ましたら、慌てないで、WSJT-X/JTDX に残っている表示から信号強度を読み取って、手入力してから Data to Hamlog ボタンを押してください。 その後、Auto にチェックを入れるのを忘れないようにしましょう。

QSL カードの選択ですが、JARL 経由でカードを発行するのなら、JARL を選択ください。

A screenshot of a software interface showing a 'QSL' menu. It contains several radio button options: 'JARL', 'eQSL EE' (which is selected), and 'NoQSL'. Below these, there is a checked checkbox for '8N, 8J, 8K = N' and an unchecked checkbox for 'hQSL'.

相手が、eQSL メンバーか、否かにかかわらず常に eQSL へ転送される場合は、eQSL を選択してください。 この時、ハムログに送る文字として JE をセットしていますが、お好みで違う文字に設定も可能です。 また相手から No QSL と言われ、カードを発行しないのなら NoQSL を選択します。

なお、8N, 8J, 8K = N のチェックマークですが、交信相手が記念局の場合はほとんど QSL1WAY ですからここにチェックマークを付けましょう。

交信相手が記念局の場合、QSL 欄の 2 文字目に N (文字は変更可) を自動的に入れることができます。 これにて、記念局には紙の QSL カード発行をしません。

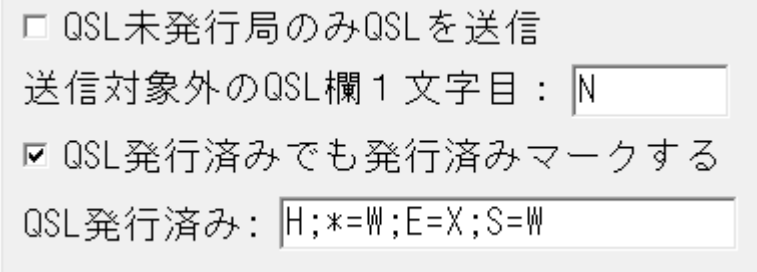
eQSL に自動転送していても、紙の QSL カードを総て発行したい局長さんは従来通り JARL を選択ください。 JARL を選択した場合は、このリンカーからはハムログの QSL 欄に何も文字を送りません。 QSL 欄はハムログ任せとなります。

hQSL にチェックを付けると、ハムログの e-Mail(以降は hQSL)と連動します。 QSO が完了し、ハムログにデーターを保存し終えたとき、hQSL に働きかけて、相手局が hQSL ユーザーならば hQSL 送信画面が表示されます。 むろん、hQSL は事前に起動させておいてください。 相手局が hQSL ユーザーで無い場合は確認画面が出ます。

長くなりますが、次に hQSL の QSL 設定についても少し説明します。

FT8で国内 QSO をするときハムログの JT- Get' s を使えば、hQSL のユーザーかどうかすぐに分かります。そうであれば、Jarl eQSL NoQSL の他に hQSL も追加すべきか迷ったのですが、別に、これを付けても付けなくても、本日の QSO が終わった時点で、hQSL で電子 QSL を送ってしまえば良いだけの話です。相手が hQSL の登録者なら電子カードが送れます。

さて、その時、hQSL の設定ですが、オプションタブの電子 QSL 環境設定画面の QSL 送信系タブを次の様にセットしてください。一つの例を挙げて説明します。



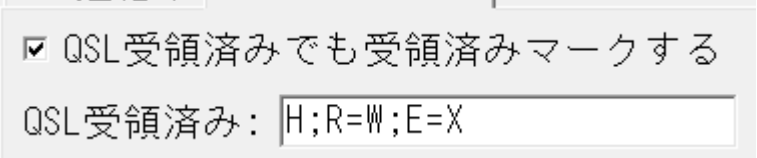
☐ QSL未発行局のみQSLを送信
送信対象外のQSL欄1文字目:
☒ QSL発行済みでも発行済みマークする
QSL発行済み:

QSL 未発行局のみにはチェックを付けない。 QSL 対象外文字は N とする。 QSL 発行済みでも発行済みマークを付けるにチェックしてください。

そして、QSL 発行済み枠には、H;* =W;E=X;S=W と記入して下さい。

これにて、QSL を発行していなければ、ハムログ入力画面の QSL 欄には J 文字のみだったら hQSL で送信出来たら JH に変わります。 JE となっていたら JX に また、JS あるいは J* であれば、JW に変わると言うことです。 紙の QSL カードをそんなに急いで印刷される方は居ないでしょうから、* とか S はまだ点いていない状態でしょうけどね。

次に QSL 受信・照合タブを開いて、次の様にセットしておきます。



☒ QSL受領済みでも受領済みマークする
QSL受領済み:

相手から hQSL が届いたら、これは自動的に JHH、または JEX とか JXX とかに変わります。 そして、後日、紙の QSL カードが届いたら、JHH を JHW 等のように手入力で W に変えるのはいかがですか？

ややこしいけど、eQSL と hQSL がダブったら X でして、電子 QSL と紙のカードとダブったら W です。

このページで書いたことは、今回このアプリとは関係ありません。一つの例として挙げたものですから、hQSL の諸設定は皆さんがお好きなようにセットしてください。

私は、この方式で、hQSL 及び eQSL メンバーさん（全交信数の約 80%）には紙のカードの発行を止めることができました。 紙カード発行部数が大幅に減って楽になりました。

Hi

以上。
By JA3CLM